

令和4年6月2日(木)



人権擁護委員の方々と町の住民課生活環境室の職員の方にご来校いただき、「人権の花運動」の定植作業をロング昼休みの時間に行いました。初めに、人権擁護委員の方々から、次のようなお話をいただきました。

「人権の花運動は、皆さんのお父さんやお母さんが生まれた頃の昭和57年に、命の大切さや豊かな心、やさしい心を育むことを目的にはじまったそうです。プランターの花に水をあげるのと同じように、人間に対しても、困っている人がいれば手を貸して、やさしい気持ちで接してあげると喜ばれますし、思いやりの心が育つと思います。花の種類や色が違うように、人間にも物事の好き嫌いや得意不得意など、『個性』というものがあります。それぞれの個性を尊重して接することが大切です。友達や家族に対して思いやりの心や、命の大切さを考えながら花を植えてもらいたいです。」

本校の合言葉「【い】いのちを大切に」と「【お】思いやり」に繋がる「人権の花運動」。ベゴニア、サルビア、マリーゴールドから選べる素敵な花苗を一人3株ずつ町からいただき、プランターに植えました。玄関前のフラワースタンドに飾り、子どもたち自身の手で大事に育てていけるようにします。

令和4年6月9日(木)



小学校と中学校間のなめらかな連携・接続を図る取組として、今日は、飯豊中で美術を担当している先生が来校してくださいました。複式学級ということで、5・6年生6名が出前授業に参加しました。

学習の導入時に、「おためし美術」というタイトルを入れた竜の絵と、自己紹介のための名前とアニメのキャラクターを勢いよくあっという間に描く先生の姿に、子どもたちは圧倒されました。先生は、漫画やアニメやゲームが大好きで、そのおかげで絵が描けるようになったことを気さくに話してくださいました。子どもたちは、とても親近感が湧いたようでした。

そして、いよいよ本題の「美術は何のために学習するのか」について問いかけてくださいました。先生は、

「美術は自己表現だから、メッセージを表現するために技法・技術を学ぶのです。つまり、そっくり上手に描く力ではなく、気持ちを絵や立体として表す力を付けるために学習するのです。」
ということを教えてくださいました。

その後、ステップ1の感情を表す簡単なコツをつかむ方法として、10の感情を絵に表すために、10個の丸に顔を描く課題を提示してくださいました。また、ステップ2の感情を分かりやすくするためのコツをつかむ方法として、十字線を使って顔の向きを表す課題を提示してくださいました。

先生は、机間巡視をして子ども一人一人の絵を見ながら、「いいですね、とても伝わる」「分かる、分かる」「ナイスアイデアだね」「最高ですね」といった肯定的な言葉をたくさん子どもたちに浴びせてくださいました。普段は絵が上手く描けなくて悩んでいた子どもも、終始笑顔で学習していました。

専門的な技法を楽しく分かりやすく教えていただき、子どもたちは、中学校の授業への期待に胸を膨らませて進学することができそうです。今後とも、中学校での集合学習や各種学校行事への参加を楽しみにしております。

令和4年6月13日（月）



先週6月10日（金）に、天候を考慮して時間帯を繰り上げ、午前中にプール清掃を行いました。急な予定の変更となりましたが、ご都合をつけてくださった保護者の皆様や祖父母の皆様にも駆けつけていただき、無事に作業をやり遂げることができました。

一緒に作業する姿を通して、学校プールを開設していることへの地域の皆様の期待や熱い思いを、子どもたちも実感することができました。本日駆けつけてくださった祖父母の方から伺った以下のようなエピソードを、教頭から子どもたちに紹介しました。

「子ども(父母)が元気に楽しく水泳したプールを、孫も使うので手伝いに来た。私の子どもが小学校にいたときは、全校生120名。プールでも元気な歓声が響き渡っていた。」

人数は少なくなっていますが、そのような思いを受け止め、水泳学習に一生懸命に取り組む姿に期待を寄せたいと思います。

本日は、6月7日（火）に雨天のため延期となっていた持久走大会を2校時目に行います。

令和4年6月14日（火）



本日は、飯豊町主催の「子ども芸術鑑賞教室」が開催されました。「子ども芸術鑑賞教室」は、町内の小中学生を対象とし、豊かで質の高い芸術作品に親しむ機会を通じて、創造性と多様な感性に富んだ、豊かな人間性を育むことを目的に開催しているものです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年間延期し、実に3年ぶりに「歌あり・ダンスあり・お芝居あり」の勇気と冒険の物語、ミュージカル「宝島」を鑑賞することができました。

今から140年近く前にイギリスで出版され、世界中で大ベストセラーとなり、アニメ化・ドラマ化・映画化など、年代を問わず広く愛されている国民的にもなじみ深い「宝島」という作品が、2.5次元のプロジェクションマッピング技術を活用して、よりリアルで迫力ある舞台となっていました。

「劇団ポプラ」のキャスト・スタッフの皆さんは、デジタルでは表せない「生身の人間」ならではの作品を40年間創り続けていらっしゃるそうです。おかげで子どもたちは、人と人との絆、冒険や挑戦、思いやりと協力など、生きることの素晴らしさを「舞台作品」を通じて感じるすることができました。

令和4年6月16日(木)



本日の2校時目に、西部地区公民館の駐車場をお借りして、「ひまわりの絆プロジェクト」を実施しました。

長井警察署の交通課の方から、このプロジェクトは、平成23年に京都府内で交通事故で亡くなった4歳の男の子が、生前大切に育てていたひまわりの種を引継ぎ、全国各地に花を咲かせるプロジェクトだということを知っていただきました。そして、自分の身は自分で守ることが、ドライバーを守ることに繋がるということで、歩行者の約束と自転車の約束を改めて確認していただきました。

その後、子どもたちは、白バイ隊員の方や飯豊駐在所の方からも、警察官の仕事やパトカー・白バイについての質問に答えていただいたり、実際に白バイに乗せていただいたりして触れ合うことができました。

手ノ子小学校の道路沿いには花壇が無いため、当初、このプロジェクトには参加できないと思っていました。しかし、学校運営協議会長で、町の交通安全協議会長でいらっしゃる西部地区公民館長さんが、このプロジェクトの趣旨に賛同してくださり、職員の方が花壇を整備し提供してくださいました。

西部地区公民館は、子どもたちが放課後に自転車に乗ってよく遊びに行く場所です。今後、プロジェクトの趣旨が公民館前を通るドライバーに伝わるよう、水をやったり、草を取ったりして、定植した8本のひまわりの苗を大事に育ててほしいと思います。

令和4年6月22日（水）



昨日、第1回学校運営協議会を開催しました。

はじめに、子ども達の学習の様子を参観していただきました。会長さんからは、

「デジタル教科書を使用してゲーム感覚で英語を学習している5・6年生の様子を見て感心した。感染対策をしながら行っている3・4年生のリコーダーの学習も、感性を育てるためには大事だと思った。」

というご感想をいただきました。

協議では、校長から学校経営方針及び重点について説明させていただき、承認していただきました。その際、社会に開かれた教育課程の実現に向けた本校のカリキュラム・マネジメントの主な取組として、①日課時限表の見直し、②学習発表会の発展的解消、③地域

の観光資源・教育資源を活用した行事の見直しについて詳しく説明させていただきました。また、地域学校協働活動推進員からも、今年度の学校運営協議会の活動計画についての説明がありました。

最後に、本校の課題として挙げた「体力の向上による学力向上」についてや、地域や現代社会が抱える子どもの課題について、学校と地域と連携して取り組めることは何か、2つのグループに分かれて話し合っていました。Aグループからは、

「スクールバスでの送迎なので、歩くことをどこかで取れないか。例えば、途中で降車して歩くとか。1キロメートルくらいは歩かせたいが、交通安全上の問題もあり、対策は必要。」

といった意見が出されました。また、Bグループからは、

「遠方より通学する状況で、特に冬場は時間のロスがある。少人数ではあるが、異年齢で遊ぶ児童の姿があることは、プラスの部分もあるのではないかと。共働き家庭が多く、友だちとの関わりが持てる放課後の過ごし方など工夫できないか。鉛筆や箸の持ち方、ゲームやスマートフォンの持たせ方は、家庭の教育力が影響しているので、啓発も必要ではないか。体感を鍛えるのであれば、バランスボールを導入してはどうか。」

といった意見が出されました。今後の教育活動に生かしていくとともに、第2回で引き続き協議していくことを確認しました。